

生ごみ処理容器と生ごみ処理機



	生ごみ処理容器		生ごみ処理機(電気式)	
	密閉型容器 (15~20ℓ)	コンポスト容器 (100~200ℓ)	乾燥式 (3~10ℓ)	バイオ式 (3~10ℓ)
				
処理にかかる時間	1ヶ月程度	6ヶ月程度	2時間程度	5時間~24時間
減容量	約7/10	約1/2~1/3	約1/7	約1/10
設置場所	屋内・屋外	屋外	屋内・屋外	
補助金額	本体価格の2分の1 (上限20,000円・10円未満の端数は切捨て)			
補助基数	1年度につき 1世帯1基 まで (但し、補助金額が5000円未満のものは年間3基まで)			
方式	<p><u>発酵分解方式</u> EM(有用微生物群)菌を使って生ごみ等を発酵分解していく方式。 出た水分は、水で薄めて植物の液肥、また排水管・トイレに流して消臭・洗浄に利用できる。密閉されているため、虫が発生しにくい。</p>	<p><u>発酵分解方式</u> 生ごみを投入し、乾いた土や落ち葉、雑草などを入れて微生物により発酵・分解していく方式。 畑など屋外で土に穴を掘り、20cmほど埋めて設置して使用する。</p>	<p><u>乾燥方式</u> 高温の熱や温風によって生ごみの水分を除去し、生ごみを乾燥させて、処理する方式。 生ごみの減量・脱臭ができ、処理物は除菌されているので、手で触れることができる。焦げたようなニオイがすることもある。基本的に、電気代以外はかからない。</p>	<p><u>バイオ分解方式</u> バイオチップに含まれている微生物を使い、生ごみと水と炭酸ガスに分解する方式。 処理物は肥料にすることができる。運転中は腐葉土のようなニオイがする場合がある。電気代は少しですむが、バイオチップ代がかかる。</p>